

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、解説資料に記載しておりますので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも御参照ください。

● 全国学力・学習状況調査 解答(回答)用紙 ⑤ 数学 A **オ至ニ**

解答欄はウラにもあります。

- 1** (1)
- (2)
- (3)
- (4) ㉞ ㉟ ㊱ ㊲
- 2** (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- 3** (1) ● ㉞ ㉟ ㊱

- (2)
- (3)
- (4) ㉞ ㉟ ● ㊱
- 4** (1) ● ㉞ ㉟ ㊱
- (2) ㉞ ㉟ ●
- (3)

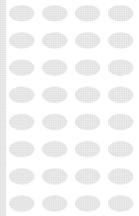
※「組」は、下の例のように、2ケタで記入し、マーク欄を塗り潰してください。
例：3組の場合

組： **03**

※「整理番号」は、「生徒用シート」を見て記入してください。

生徒記入欄		
組	整理番号	性別
00	00	男
01	01	女
02	02	男
03	03	女
04	04	男
05	05	女
06	06	男
07	07	女
08	08	男
09	09	女

答案番号



※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、解説資料に記載していますので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも御参照ください。

● 全国学力・学習状況調査 解答(回答)用紙 ④ 数学 B オモテ

解答欄はウラにもあります。

1 (1)

0.7

2 (1)

28

(2)

$\frac{1}{12}$

(2)

はじめの数として入れる整数を n とすると、計算結果は、
 $(n-4) \times 3 + n = (\text{例}) 4(n-3)$
 $n-3$ は整数だから、
 $4(n-3)$ は 4 の倍数である。
 したがって、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも 4 の倍数である。

(3)

説明
 (例) 全校の回答用紙 90 枚をくじにする場合は全部で 90 通りの出方があり、F が選ばれるときは、場合の数が 27 通りなので確率は $\frac{3}{10}$ である。また、1 年生の回答用紙 50 枚だけをくじにする場合は全部で 50 通りの出方があり、F が選ばれるときは、場合の数が 20 通りなので確率は $\frac{2}{5}$ である。2 つの場合の確率を比べると、 $\frac{3}{10}$ より $\frac{2}{5}$ の方が大きい。よって、全校の回答用紙 90 枚をくじにする場合よりも 1 年生の回答用紙 50 枚だけをくじにする場合の方が F が選ばれやすい。

(3)

● ○

(例) 4 の倍数

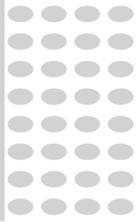
※「組」は、下の例のように、2 ケタで記入し、マーク欄を塗り潰してください。
 例：3 組の場合

組：03

※「整理番号」は、「生徒用シート」を見て記入してください。

生徒記入欄		性別	
組	整理番号	男	女
00	00	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
01	01	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
02	02	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
03	03	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
04	04	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
05	05	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
06	06	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
07	07	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
08	08	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
09	09	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

答案番号



※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、解説資料に記載していますので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも御参照ください。

● 全国学力・学習状況調査 解答(回答)用紙 ④ 数学 B **ウラ**

解答欄はオモテにもあります。

3

(1)

(2)

①	2	km
②	4	km

(3)

説明

(例) 列車アと列車エの2つのグラフについて、 y の値が6のときの x の値の差を求める。

4

(1)

(2)

(例) ②, ③より, $OA + AE = OC + CF$ ……④

(3) (例) 四角形ABCDが正方形ならば、四角形EBFDはひし形になる。

5

(1)

$$\frac{560}{3500} \times 100$$

(2)

説明

(例) 通常料金 a について、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを表す式に、 a が含まれていないので、通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。